

中後期除草と斑点米カメムシ対策

昨年も残草発生量が多く、今年の圃場残存種子量は多いと思われます。加えて、春先の高温によって雑草の動きが早くなり、初期、一発除草剤の散布遅れとなった圃場では、後発雑草の発生が多くなります。後発雑草は稲の影に隠れて大きくなるため、発見時には手遅れということもしばしば。溝切りや穂肥散布、草刈り時に合わせて圃場内部に雑草が発生していないか確認してください。

色彩選別機のパフォーマンスが上がってきているとはいえ、斑点米が多すぎると色彩選別機でも取り除ききることができず落等してしまったという事例があります。

斑点米カメムシ類はノビエ等のイネ科雑草、ホタルイなどのカヤツリグサ科雑草を好むため、おびき寄せないためにも圃場内の除草の他に、農道、畦畔、休耕田などの除草を地域でまとまって行い、繁殖地を無くすことが大切です。

雑草が多い

斑点米カメムシ類が多い

圃場内、農道、畦畔、休耕田
除草の徹底

斑点米カメムシ類
住処、繁殖地根絶

剤系	薬 剤 名	使 用 量 希 釈 水 量	本 剤 使用回数	使 用 時 方 期 法
ヒ エ 剤	ク リ ン チ ャ ー 1 ⅴ 粒 剤	1 kg / 10 a	2 回 以 内	移植後7日～ノビエ4葉期 但し、収穫30日前まで 湛水散布、又は無人ヘリコプターによる散布
		1.5kg / 10 a		移植後25日～ノビエ5葉期 但し、収穫30日前まで 湛水散布、又は無人ヘリコプターによる散布
	ク リ ン チ ャ ー E W	100ml / 10 a 25～100 ⅴ		移植後20日～ノビエ6葉期 但し、収穫30日前まで 湛水散布又は落水散布
	ヒエクリーン1キロ粒剤	1 kg / 10 a	1 回	移植後15日～ノビエ4葉期 但し、収穫45日前まで 湛水散布、又は無人ヘリコプターによる散布
	トドメMF1キロ粒剤	1 kg / 10 a	3 回	移植後14日～ノビエ5葉 但し、収穫50日前まで 湛水散布又は無人航空機による散布
広 葉 剤	ト ド メ M F 乳 剤	200ml / 10 a 25～100 ⅴ	2 回	移植後14日～ノビエ7葉 但し、収穫50日前まで 湛水散布又は落水散布
	バ サ グ ラ ン 粒 剤	3～4 kg / 10 a	1 回	移植後15日～55日 但し、収穫60日前まで 落水散布又はごく浅く湛水し散布※スポット処理可能
	バ サ グ ラ ン 液 剤	500～700ml / 10 a 70～100 ⅴ	2 回 以 内	移植後15日～55日 但し、収穫50日前まで 落水散布又はごく浅く湛水し散布※スポット処理可能 注・異常高温下での散布は避ける

水田周辺の草刈り時期

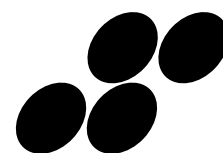
	6月	7月		8月
	下旬	上旬	中旬	下旬
農道畦畔 法面休耕田等	草刈り期間		おばこ一斉草刈りデー 7/18～20 出穂10～15日前までに 草刈りを終わらせる。	カメムシ防除まで 草刈り禁止

農薬安全使用

薬剤散布をする場合は、以下の点に注意し散布しましょう。

- ◎農薬のラベルに記載されている使用基準を遵守する。
- ◎農薬散布時は農薬飛散(ドリフト)しないよう風向や風速に気を付け、強風の場合は散布を控える。
- ◎農薬飛散(ドリフト)による周辺農作物等への影響が懸念される場合は、水面施用剤(粒剤)を用いる。
- ◎薬剤散布を実施する際は、周辺の住宅地や農作物に配慮し、事前に近隣住民に知らせる。
- ◎養蜂が行われている地区で薬剤散布をする場合は、養蜂業者と連携をとり、できるだけ早朝または夕刻に散布するなど、ミツバチへの危害防止を徹底する。

No.4



安心のネットワーク

NOSAI

農業技術情報

令和4年7月発行

発行：秋田おばこ農業協同組合／秋田県農業共済組合仙北支所

監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課



高温登熟に備えて生育確認を 病害虫雑草防除は確実に実施

管内では、5月21日に田植え盛期(50%)を迎えました。5月下旬までは高温傾向でしたが、6月上旬の低温で一時的に生育が停滞し、6月10日現在、平年よりも少し生育が遅れています。

今年も高温傾向と予報されているので、生育は回復してくると見込まれますが、無効分げつの増加が懸念されます。生育診断を行い、高温登熟に耐えられる稲体に仕上げていきましょう。

あきたこまち定点調査結果(6/10)

	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)
本年値	24.4	5.4	106	5.7
平年値(平年比)	24.9(98%)	7.7(70%)	156(68%)	5.8(－0.1)
前年値(前年比)	23.5(98%)	5.5(98%)	101(105%)	5.3(+0.4)

7月の栽培技術留意点

生育診断による穂肥

田んぼとイネに合わせて水管理、穂肥判断するためにも、生育調査、観察は必要です。登熟期間の高温を念頭に、暑さを乗り切る穂肥の判断をお願いします。

ポイント

移植日によって圃場生育差

穂肥判断

こまめな
生育調査・圃場観察

雑草対策は斑点米対策

今年も斑点米カメムシ類の発生は多いと予報されています。雑草が多い箇所の除草の徹底をお願いします。ノビエ、ホタルイが残草しているところに必ず斑点米カメムシ類が潜んでいます。

ポイント

ノビエ、ホタルイ対策

斑点米カメムシ類多い予想

溝切りの実施

今夏も高温が予報されています。最後まで実らせるように効率的な水回しには溝切りは欠かせません。

ポイント

高温登熟
節水対策
実りへの水分補給

【必須技術】
溝 切 り

いもち病対策

一度感染拡大すると抑えるのが大変です。定期的に見回りをしながら、早期発見早期防除をお願いします。葉いもちの防除徹底で、穂いもちへ移行させないようにしましょう。

ポイント

【警戒すべき箇所】

葉色が濃い箇所

昨年発生した箇所

生育診断と穂肥

異常気象下でも安定的に収量を維持しながら高品質米生産に取り組むには、稲の生育状況を把握し圃場に合った穂肥など生育管理をすることが大切です。幼穂形成期に生育・栄養診断を行い、診断結果と気象予報に応じた穂肥を行いましょう。

生育・栄養診断の実施(あきたこまち) 【時期別理想生育量】

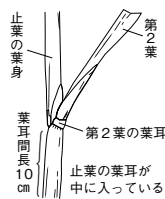
項目	時期	最高分げつ期	幼穂形成期	減数分裂期
草丈 (cm)	上限	52	65	75
	理想	48	60	70
	下限	45	55	65
茎数 穂数 (本/㎡)	上限	580	560	500
	理想	540	520	470
	下限	500	480	420
葉数		9.8	11	12.5
葉緑素 計値 (SPAD)	上限	46	44	40
	理想	44	42	38
	下限	42	40	35

生育・栄養診断の実施(ゆめおぼこ) 【時期別理想生育量】

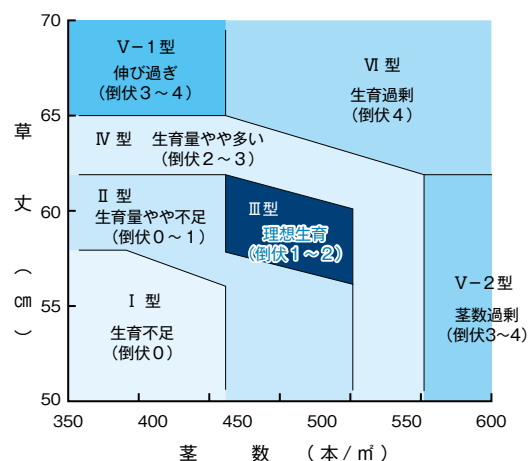
項目	時期	最高分げつ期	幼穂形成期	減数分裂期
草丈 (cm)	上限	54	69	83
	理想	50	64	76
	下限	46	59	69
茎数 穂数 (本/㎡)	上限	650	630	560
	理想	580	560	500
	下限	480	460	420
葉数		9.5	10.6	12
葉緑素 計値 (SPAD)	上限	41	39	39
	理想	39	37	37
	下限	37	34	34

穂肥一覧

肥料名	おぼこロマンみのり	おぼこロマンめぐみ
施肥量 (kg/10a)	7～13kg (チッソ換算:1.05～1.95kg)	
施肥時期	出穂前15日	
備考	硫安系 15-4-15 有機20%入り	塩安系 15-4-15 有機20%入り



幼穂形成期(7月15日頃)の生育診断(あきたこまち)



まだ間に合うケイ酸

ケイ酸が十分にあることで、高温下でも稲体の呼吸・蒸散機能が維持され、稲体の夏バテを防ぎ登熟を向上させます。また、籾殻の結合を強くし割れ籾を防ぐことで斑点米カメムシ類による被害を軽減してくれます。ケイ酸は、高温、低温、日照不足等異常気象下での稲作に欠かせない必須成分です。

春先に散布していない方は早期にケイ酸を施用し、整粒歩合を高めます。

中間追肥一覧

肥料名	種類	施肥量(kg/10a)	施用時期	施用効果
おぼこロマン大地	ケイ酸含有肥料	20～40kg	幼穂形成期まで	①倒伏抵抗性が高まる ②根の活力向上
けい酸加里		20kg		③有効茎歩合向上 ④登熟歩合向上
シリカ未来		1.4kg (1本)		⑤食味向上 ⑥病虫害被害の軽減
K S K 28	リン酸含有肥料	20kg	9葉期まで	⑦葉身の老化軽減 ⑧ワキの発生抑制
P K 40 号				異常還元(ワキ)等により、分げつが遅れている稲や根張りの弱い稲に使用。
マグコープ				①根の活力向上 ②有効茎歩合向上 ③登熟歩合向上



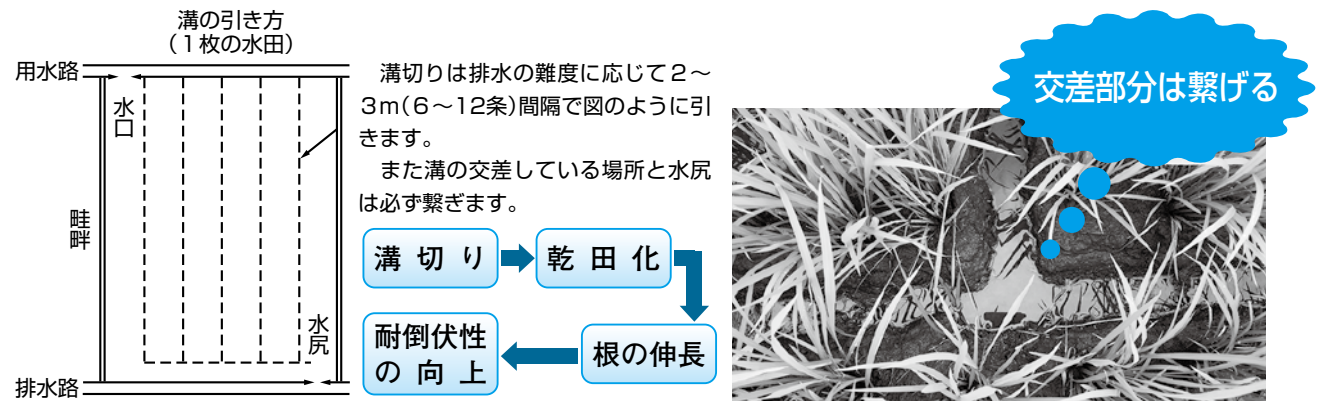
異常気象の強い味方

溝切りの実施

高温時に地域全体で水回しをするためにも、節水をしながら効率的な水管理ができる「溝切り」は今年の稲作の必須技術です。

溝切りは、中干し開始2日後頃の田面がやや軟らかい状態で行います。溝の交差部分と水尻は忘れずに必ず繋いでください。乗用型溝切り機は少し水を張った状態で行うと作業効率が上がります。

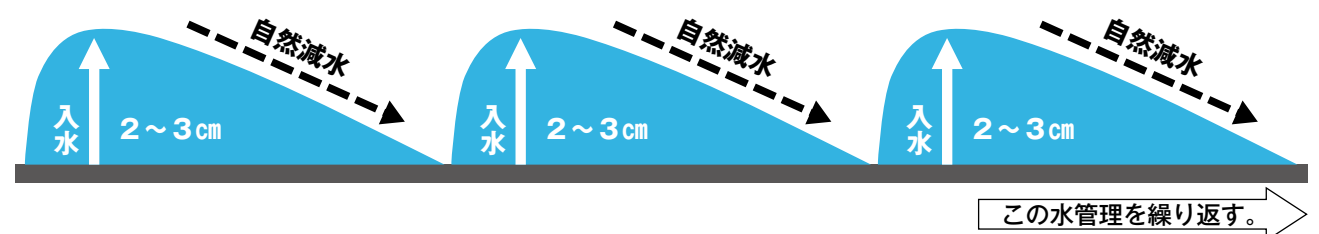
圃場整備初年度や排水不良田、高低差がある圃場では必ず溝切りを行ってください。



根活できる水管理

中干し後、根の活力を維持しながら穂を形成していくには、土中の酸素が必要となります。異常還元を回避し、土壌を酸化的に保つには、田面を常に湿潤状態に保たせる「飽水管理」が有効です。飽水管理の継続で根の活力を維持し、極端な葉色の低下と、有機物の分解を促進させます。

飽水管理の方法



- ・土壌を湿潤状態に保ち、異常還元を回避しながら、土中に酸素を供給させる。
- ・登熟期間も飽水管理とする。
- ・除草剤等散布時は、止め水期間を守ってください。
- ・田面にヒビが入るほどは乾かしすぎない。
- ・出穂前後は大量の水が必要になるため、3cm程度の湛水管理。
- ・除草剤等散布時は、止め水期間を守ってください。
- ・田面が柔らかくなりすぎないように注意。

葉いもち早期発見・早期防除

昨年一部地域で多発したように、いもち病は一度発生すると広範囲に感染が広がり、食い止めるのが難しい病気です。今年も警戒を怠らずに徹底防除をお願いします。

葉いもちの発生を確認したら直ちにブラシン剤またはノンプラス剤を散布するとともに、お近くの営農センターへご連絡をお願いします。

農薬名	倍率	散布量(10a)	使用時期	使用回数	使用方法
ブラシン粉剤DL	1,000倍	3～4kg	収穫7日前まで	2回以内	散布 ※散布機の開度は一目盛程度で散布
ノンプラス粉剤DL		60～150ℓ			均一に散布する。
ブラシンフロアブル					
ノンプラスフロアブル	—	3～4kg	葉いもちに対しては初発10日前～初発時、穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで		水深最低3cm以上で散布 無人ヘリでの散布可能 水深3～5cmの湛水状態で均一に散布する。
コラトップ粒剤5	—	250～375g			
コラトップ豆つぶ	—				

カドミウム対策

対象地域では、カドミウムを稲に吸収させないため、出穂前後各3週間は常時水を張り、田面が空気に触れないように管理してください。カドミウムは土壌中の酸素が少ない状態になると土壌中の硫黄と結合し水に溶けにくくなり、稲に吸収されにくくなります。